

若い力が集落法人の経営発展を担う

【平成 29 年 5 月 18 日掲載】

神石高原町光末の（株）ヴィレッジホーム光末（光末幸司（みつすえこうじ）代表取締役、水稲 17ha、肉用牛（繁殖）16頭、白ねぎ 0.7haなど）は、若い担手を積極的に雇用し、年々経営規模を拡大しています。

平成26年から29年にかけて県立農業技術大学校の卒業生3名が同法人へ就農しています。このうち2名は、大学校の2年生で実施される農家研修がきっかけで、同法人へ就農しました。肉用牛（繁殖）担当の向原毅（むかいはらつよし）さんは、「就農4年目なので、後輩達の手本となれるように取り組みたい。繁殖成績を向上させ、部門として確立していきたい。」と意欲的に取り組んでいます。野菜担当の桑山修一（くわやましゅういち）さんは、「1年たって、全体の流れが分かってきた。昨年よりも良いものを作り、売り上げ増加に貢献したい。」という目標を持っています。今年4月に採用された河上瑞樹（かわかみみずき）さんは、「今は分からないことばかりだが、先輩達に学んで頑張っていきたい。みんなが話しやすい雰囲気なので、積極的に動きたい。」と話しています。光末代表取締役は「農業技術大学校の卒業生は基礎的な知識は十分に持っているのだから、さらに現場で勉強して、将来的に各部門の責任者となって欲しい。」と今後の成長を期待されています。

東部農業技術指導所では、当法人の新規雇用者の技術力向上と経営発展を今後も支援していきます。



左：和牛の世話をする向原毅さん
中：白ねぎを定植する桑山修一さん
右：水稲の播種作業をする河上瑞樹さん

情報提供元

東部農業技術指導所